						の承認を得て、全工種分を一括約
					受注会社名	「事については、監督職員
	<del>   -           </del>	出来形管理図表品 質管理図表			支所	1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴り
			種目		事業所	<u> り管理図表は、本表紙様式により、工</u>
禁式 1	平成年度					注) 1. 出来形(品質

### 出来形管理図表

工 事	名			受注会	社名					
工種	名			測 定	者					
						管	理基準値 A	規格値 B	測 定単 位	
番号	月日	測点	設計値	実測値	設計との	値差	管理基準 値との差		設計値との差	
			С	D	E = D -		F =  A  -  E			
記入	事項	-			-	-			測定箇所図	
1			掘削(基準剤		・ーム(厚	さ(T	))、橋台			
2			)ズレ(e))等 は、施工順位		削点しの料	聞はき	当該測占			
	番号を	記入了	する。			M 100 _	W.CW.VII			
			は測定年月日		-					
4	. 設計信	直とのき	<b>皇の単位を定</b>	め、目盛りに	<b>する。</b>					
5	合は・	- 側の1	A 値は、E > 値を用いる。   にない場合	また、¦A¦値か	、+ 側か	- 側(	の片方、			

様式 2-2

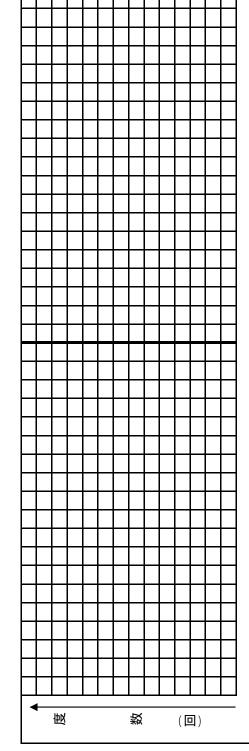
伍 伍 工工 平

皿

强 Ш 枡

佄

受注会社名測 定 者



₩ 6 رد 画 — 殼 計

注)出来形管理で20点以上の場合使用する。

3-1 森に

			管理基準   値との差   F= A - E									
			設計値 との差 E=D-C									
		無 位 位 位	実測値D									
			設計 値 C									
Ī		規格値 B + T	测点									
		管理基準値 A +   -	月日									-
			海中									1
			管理基準 値との差 F= A - E									1
受注会社名	测定者		設計値 との差 E=D-C									<u>1</u>
Ī	Ī	重 位 位	実測値口									
		規格値 3 B 5	設計値									1
		規 + 1	測点									: : :
			<b>I</b>	$\vdash$			<b>-</b>	<del>                                     </del>			<b>-</b>	ı
事名	種名	管理基準値 A 十 —	番号月日									記入事項

- 1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台エ(中心線のズレ(e))等と記入する。

- 2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。 3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。 4. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は十側の値を、E≦0の場合は一側の値を用いる。また、|A|値が十側か一側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号 側はF=「−」とする。

# 鋼管溶接測定結果一覧表

工 事 名				<u>受注会</u>	性名	
工種名				<u>測 定</u>	者	
測定位置		実	則 値		管理基準値	摘要
/	Х	Υ	χ,	γ,	自注坐十個	10 女

# 鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名			受注会社名				
			測定者				
測定位置	工種	項	目	判	定	摘	要
炽た世直	上 作		П	良	否	116)	<b>女</b>

3 - 4 榛式

# 表 掣 | 眯 結 띬 戸 廽 噩 \_ ン ~ ш **``** 絽 火 邕

受注会社名 **∰** 戸 工事名

	Ħ	ħ						
	#							7
	-} 	打作						
	(参考)	規格値						-
	(	р						
神	測定值(埋戾後	၁						
测定者	定値(:	q						
•	展	а						
	当少年日日	凯佐十万口						
	<u>"</u>							
	垂							
	判定							
	经田甘淮店	昌坯埜午順						
		平均						
	合時)	р						とする。
	測定値(接合	C						平均と
	河定(	q						箇所の
		а						51), 41
	測定位置	(管番号)						時の値であ
		池を十カロ						管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均。
	管種名	(呼び径)						主 1. 管理基

洪

2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。

測定箇所

3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。 また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a、b、c、d'の位置とする。

5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

	体本		
値	þ	( ?	( ?
則定値	C	夕記載	夕記載
,	q	側デー	側デー
	а	<u>(</u>   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○	(挿口,
	位置	EK	押
	测定	NO.	"
< 記載例 >			

(参考) 標線による計測 標線によらない計測

ジョイント間隔 = 受け口長 $_{\rm l^2}$  - (標線長 $_{\rm l}$  - 測定長 $_{\rm x_1}$ ) ジョイント間隔 = 受け口長 $_{\rm l^2}$  - (管有効長 $_{\rm l}$  - 測定長 $_{\rm x_2}$ )

### 埋設とう性管たわみ量管理表

工事名	受注会社名
管種(長さ)	測 定 者

測定	管据付時			管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t (mm)	
測 定 位 置 (管番号)	D	たわ み率	Dh	たわ み率	D	たわ み率	Dh	たわ み率	D	たわ み率	Dh	たわ み率	D+t(mm) (内径)(管厚)
	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	

### たわみ率の計算

$$\frac{X}{2 R} \times 100 (\%)$$

X = [2R-(D+t)]又は[2R-(Dh+t)]

2R:管厚中心直径

t∶管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。
  - 2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。
  - 3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 3-6

# 鉄筋組立検査結果一覧表

工事名:

受注会社名

**基** 

	₩							
:	垂							
組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	判定							
	判定							
15 15 (mm)	検査値							
Ą	設計値							
	判定							
(ww) 置	設計値 との差							
中心間	検査値							
	設計値							
/本数(本)	判定							
径(mm)及び本数(本)	設計値							
	測定年月日							
	細							

測定箇所 : (設計上の位置及び名称)

测定者

記入事項

- 1. かぶりの許容誤差は± かつ最小かぶり以上とする。
  - 2. 鉄筋間隔の許容誤差は± とする。
    - 3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

# <u> 杭打ち成績表</u>

工事名	:				受注会社名:								
工種名	:				<u>測 定 者</u>	ž I							
杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測 定 時 杭深度(m)	ハンマ <i>ー</i> 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要				
杭配置図					٠ <del>٠</del> ١٠	<u>.</u>							
					適用公式								
					設計支持	<del>]</del> /J;							